

「今年の年賀状から」

齋藤 義英

「私はこの震災で学んだこともあります。それは、一日一日を楽しく過ごし、生きているのは奇跡だということです。

震災で家族や友人がいなくなってしまった人達がたくさんいます。私の家族は、全員無事でした。いつもだったら当たり前のことでも、今はそのことがすごい奇跡だと思っています。

私は今、生まれ育った気仙沼で生きています。それがどんなに幸せなことかを知りました。毎日楽しく過ごしていることも、今の一番の幸せです。

私の命は、今も音を立て、動いています。それがわかると、うれしくて、いつも心の中で思います。

『私は今、生きている』ということを。

気仙沼中学校二年 齊藤日向子

この文章に心を突き動かされたと友人は書いています。

節分では、今年も「鬼は外、福は内」と叫ばれたようですが、その人にとって「鬼」や「福」とは何でしょうか。鬼は自分に都合の悪いもの。福は都合の良いものではないでしょうか。そこには、自分が「今、生きている」という感動はないでしょう。

あらためて、御遠忌のテーマ、「今、いのちがあなたを生きている」を戴きたいと思いません。

なお、前出の文章の出典は、「つなみ 被災者のこども80人の作文集」(文藝春秋8月臨時増刊号)です。